

二百十日、防災の日は9月1日 !!

高齢者大学の講座は、日本の風土と風土がもたらす文化の多様性から話を始めています。昨年は雲の話、今年は雨についてです。雨の種類も多く、紅雨、五月雨、翠雨、洗車雨、酒涙雨など素敵な名前が付けられています。でも、雨のもととなる水蒸気は、大気の中では1%程度ですが、天気を大きく左右しているのです。東北、中部、北陸の日本海側で8月初旬には河川の氾濫、土砂災害が発生しています。また、道南も何度か大雨警報が出されています。



気象予報士で防災士の菅井貴子さんは「色々と防災情報も出されると思うが、自ら情報を入手するようにしたい。スマートフォンで住んでいる場所の“リスク”を確認してほしい」と話しています。キキクル(気象庁)、川の防災情報(国交省)にアクセスして見てください。

会員の皆さん！やりたいことをどんどん提案しましょう

8月1日に役員会を開催しました。秋以降の活動などについて話し合いが行われました。会議の報告を行いますので、今後の活動へのご参加、ご協力をお願いします。

1. ボランティアとしての防災連絡会議

連絡会議の未来について考えることがあります。連絡会議は市を応援し、事務局からは支援をいただいておりますが、私は事務局との関係は対等と考えています。また、防災連絡会議は自分たちで議案書を作成し、総会を開催し、議案書にもとづいて主体的に活動しているボランティア組織で、しかもお金をいただいて仕事をしている訳ではありません。ですから防災連絡会議に対する評価は「感謝」しかないと思っています。

役員体制は新体制に移行しましたが、役員の多くは、2014年の連絡会議発足時から役員を担当し、活動を支えてこられた方々です。役員交代がスムーズにできるかどうか活動継続のカギになると考えています。結成時の初心に帰り、やりたいことを、自分でなげやできないことをどんどん提案してほしいと思います。ご意見、提案等は事務局経由で防災連絡会議までお願いします。防災連絡会議役員が回答いたします。 代表 上野廣幸

2. 総会以降の活動の報告

■せせらぎ大学(大野地区高齢者大学)もまた楽し!

せせらぎ大学では、火山の話もしてきました。私は1977年8月の有珠山噴火を目の当たりにしましたし、火山灰の除去作業などのボランティアも体験しています。駒ヶ岳のハザードマップを見ると、北斗市は火砕流の危険性は少ないと思いますが、風向によっては火山

灰の被害が心配されます。風向、特に北風に注意が必要となります。講座の最後に、「津波時にはこちらに避難しますので上磯地区をお願いしますね」と話しました。するとある方は「わかった」と言ってくれました。うれしかったです。北斗市誕生（平成18）から16年目、防災を通じて大野地区と上磯地区の交流を深めたいものです。

■6月22日 防災教育の先進校上磯高校で1日防災学校が開催

連絡会議から市川朱美さん、栃木正則さん、菱田繁樹さん、上野廣幸さんの4人が参加しました。栃木総務部長には実習後に、防災連絡会議を代表して挨拶に立っていただき、防災の取り組みに対して生徒にエールを送っていただきました。栃木さんの上磯高校での1日防災学校の感想をご紹介します。

一日防災学校（HUG研修）に参加して

先日、上磯高校が取り組んでいる防災学習の「HUG研修」の学習に防災士として参加・見学させて頂きました。恥ずかしい話ですが、私自身「HUG研修」がどういうものなのか知らずに参加しました。勉強半分・興味半分で参加させて頂きましたが実際に見学・体験すると大変良くできた研修だなと感心しました。

避難所の設営を初めはゲーム形式で楽しみながら、しかし、進めるうちに真剣に考えさせられるように出来ており、よく考えられて作られているなど感じました。そして上磯高校の生徒の皆さんがとても有意義な経験と学習をしているなど感じました。1年生から3年生それぞれのグループに分かれての「HUG研修」ですが、初めての経験となる1年生から経験豊富な3年生！それぞれのグループの特色が出ますし、やはり何回か経験している2年生3年生はスムーズに進めているなど思いました。このような所にも普段の訓練や経験が大事なのだと感じますし、防災学習に取り組んでいる上磯高校も素晴らしいと思います。

我々大人も日頃の防災意識や訓練に触れる機会を意識的に作っていかねばと、改めて感じます。

栃木正則さん（追分）

■津波避難路等の標識調査・・・百聞は一見に如かず、百見は一考に如かず・・・



事務局からの調査依頼があり、役員・地域委員、それに会員の方にも手伝っていただき、地区別に分担して調査を行いました。調査の内容は市の標識、設置場所を記した台帳との照合と新たに設置された標識の調査です。地図に標識の位置を記す、標識の写真を撮るなどの作業、歩いて、自転車を使っただけの作業でしたので、少し大変だったのではないのでしょうか。ただ、避難路を歩いてみると新しい発見もありました。良い勉強になったと思います。調査のご協力に感謝申し上げます。

■上磯中学校で防災教室開催 連絡会議から5名参加

8月20日、上磯中学校で防災教室が行われ、連絡会議から田原勝昭さん、虻川勝男さん、菱田繁樹さん、木村秀美さん、上野廣幸さんの5名が参加。避難所で使用するテント、ベ

ット、非常持ち出し品等の説明、それに電動備蓄型自動パック式トイレなどの説明を担当しました。トイレの説明が生徒には強烈な印象を与えたように思います。女子は少し恥ずかしそうでした。でもトイレ問題は避難所の大きな課題の一つです。写真は電動備蓄型自動パック式トイレ。私たちも初めて見たもので、排泄後の処理が1回使用ごとに自動でパック処理される衛生的なトイレです。1度のセットで50回使用でき、90秒でパックされる優れた物のトイレです。ちなみにテントとベットの備蓄数はそれぞれ108。不思議なことに煩惱の数だけあるのです。



トイレの説明をする虻川さん

■津波避難ビルの運用についての三者会談も始まる

函館水産高校で水産高校の管理職、総務課防災担当、七重浜桜ヶ丘町会長の三者による会議が行われ、大津波時の生徒の避難、市民への避難場所の提供、休日・夜間の校舎の開錠について話し合いが行われています。連絡会議としては2年前の秋に事務局と一緒に水産高校を訪問しています。

また、大工川親交会の要望により、市が主催する道営住宅常盤団地の自治会役員への津波避難ビル説明会も行われています。町内会としては新たなアクションを起こしたいと考えています。



津波避難ビル・道営住宅常盤団地

■フィールドワークは次年度に延期・・・土地改良区の皆さんに感謝

議案書にあるように、今年は水利施設の見学と講演を組み合わせたフィールドワークを計画し、上磯土地改良区、渡島平野土地改良区の方々のご協力により計画案を作成しました。しかし、感染症の拡大もあり、今年は残念ながら中止とし、次年度に延期することにいたしました。昨年のテーマは、活断層、露頭観察、今年は大野平野の水利施設（大野川頭首工、上磯ダム、用水路）の見学と農地・農業水利施設を利用した防災についての学習会の2本立てです。このようなフィールドワークの企画は、土地改良区の方々のご支援の賜物です。連絡会議としては、計画は実施できませんでしたが、土地改良区とのつながりを持つことができました。このように防災活動を展開するためには、つながりを持つことが必要です。ぜひ「水土里ネット北海道」のホームページにアクセスして見てください。

3. 秋からの活動について

■防災ハンドブック改訂作業進行中

新しい防災ハンドブックは年度内の発行をめざして、総会以降、改訂作業が進められています。連絡会議から改訂に向けた意見の提出。連絡会議としての基本的な考え方については、旧ハンドブックにある避難場所等の一覧表の精査と今までの避難場所等の標識の改善計画を作成しながらハンドブックの改訂をしてほしいということです。ハンドブックのゲラ刷りも示され、役員と地域委員を含めた運営委員会の中、校正作業を行ってきています。8月に

1 回目の校正が行われ、2 回目の校正は 10 月の予定です。連絡会議としては、今後も住民の立場に立ち、わかりやすい、見やすいハンドブックの作成に向け、楽しく議論して行きたいと思っています。

<連絡会議の独自の活動について>

秋以降の具体的な活動については、9 月の役員会で正式に決定しますが、議案書の活動計画にあるものは「災害等での LINE や SNS の活用についての研修会」の開催と「大野地区での HUG 研修を通じての交流会」の開催の 2 つです。

パソコン教室、パソコンの修理も手掛ける PCS の経営者でもある会員の白石さんに災害時の SNS などの活用について寄稿していただきましたのでご紹介いたします。

気軽に SNS、情報収集と発信のためにネットを活用！

最近、生活のいたるところでインターネットが利用され、特にスマートフォン（スマホ）での利用を前提とした SNS などは、これがなければ生活が成り立たないような人もいます。たしかに便利ですが、ついていけない、だまされるんじゃないか、デマがたくさんあるなど不安感があり踏み込めない人もまだまだたくさんいます。

しかし、ネット社会についていけないからと自信をなくするのは早計というものです。ネットは昔からある本や新聞、テレビ、ラジオ、電話、はたまた井戸端会議や世間話などと同じ情報交換の道具の一つ、メディアの一種なのです。見た目が今までのものと大きく違うので戸惑ってしまうだけで、わかってしまえばたいしたことはありませんし、必要ないと感じれば無理して付き合うこともありません。

防災・減災のためには正しい情報の入手と発信が不可欠です。道具を一つ増やしてみるくらいの気軽な気持ちで SNS などの活用に取り組んでみてはいかがでしょうか。

白石勝土さん（久根別）

*** 防災ミニ情報 ***

市内で危険な河川とされる戸切地川。町内会からの河川改修工事の要望がここ数年だされている。この川と対比される河川が久根別川（アイヌ語では黒い川？）。久根別川は、木地挽山付近にその源を発し長さは 21.4km、支流は七飯町の西を流れる藤城川、鳴川、蒜沢川など 6 本ある。この支流の多さ、流域面積が広いことが戸切地川との違いで、56 年 8 月の洪水など、久根別川もその歴史を見ると暴れん坊河川であることがわかる。久根別川を知るために、久根別川水系河川整備基本方針（令和 4 年 1 月北海道）を読むことをお勧めしたい。



戸切地川の堆積土除去作業（大工川大橋）

※通信は市の HP で、カラー版でご覧いただけます。

URL : <https://www.city.hokuto.hokkaido.jp/docs/1219.html>

事務局 北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73-3111（内線 212） メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp